

一人親家庭「体験」に招待

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」に県内から鯖江市のNPO法人「フードバンクふくい」が選ばれた。一人親家庭や児童養護施設の子どもらをぶどう狩りや地引き網漁の体験に招待する費用に50万円が充てられる予定で、理事長の出雲晴夫さん(75)は「家庭の事情で他の子より経験が少ない子どもたちに楽しんでほしい」と力を込める。

出雲さんは2016年10月、一人親や貧困家庭の親子を対象に食料を支援する「フードバンクふくい」を設立した。これまで食料支援を行ってきたほか、楽しい経験も積んでほしいと、梨やぶどう狩り、地引き網漁体験を企画してインターネットで参加者を募

集。一人親家庭約40組や、児童養護施設の子ども約70人を招待してきた。

18日には、あわら市の梨園で梨狩りの無料体験を開き、母子家庭の親子49組が参加した。参加者は1時間、思い思いに梨をもぎつけてほおばつた。坂井市から参加した小学一年生から年生の子どもたちの母親は「子どもにやらせてあげたくてもできない」とを体験させてもらつて助かる」と話していた。

鯖江市にある同法人の事務局には、体験の感想がつづられたメモや絵付きのハガキが大切に保管されている。出雲さんは「少ししづつ支援を続けていくことが、貧困の解決につながるはず」と話す。子どもの成長を見守りながら「できる限り」力を尽くすつもりだ。

鯖江のNPO選出



賣

新

月

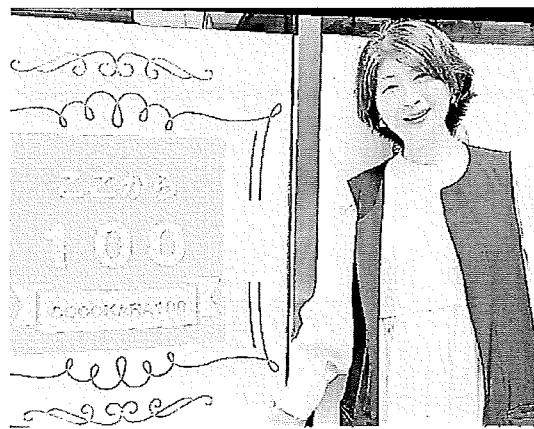
大阪

ひと

お年寄り活躍の場 提供

デイサービスやデイケアなど介護が必要な高齢者向け施設はよくあるけれど、元気なお年寄りが気軽に集まる場所は案外少ないんじゃないかな。NPO法人「ここから100」代表理事の金山佳子さん(60)の活動は、こんな素朴な疑問から始まりました。

NPO法人「ここから100」代表理事
金山 佳子さん 60



大阪市淀川区出身。化粧品会社の営業などを経て、一人娘が成人した54歳の時に「ここから100」を設立。整理収納アドバイザー、福祉住環境コーディネーターなどのスキルを生かし、各種セミナーも定期的に開催している。

子ども食堂活動
育成支援事業に

光と愛の事業団

NPO法人「ここから100」の子ども食堂の活動は、読売光と愛の事業団の今年度の「子ども育成支援事業」に選ばれた。食堂での調理は、大阪保健福祉専門学校の学生や近隣のお年寄りらがボランティアで担当。「ここから100」(淀川区十八条)に集った人が飲食をともにするスタイルで運営してきた。コロ



七夕の飾り付けをした部屋で学生ボランティアらと一緒に食事を楽しむ子どもたち(今年7月、NPO法人「ここから100」提供)

018年4月のことでした。「ここから100歳まで、人生100点満点で」との思いを込めて「コミュニティース」「ここから100」と名付けました。終活ではなく、様々なプログラムを口語化して用意し、「生前整理診断

生前整理の仕事は、ゴミ屋敷や孤独死、虐待などの社会問題と密接に絡み合っている。コロナ禍で貧困に転落した

士」の専門知識を生かして家

の片付けや相続、見守りなど

の相談にも応じてきました。

◇

生前整理の仕事は、ゴミ屋

敷や孤独死、虐待などの社会

問題と密接に絡み合っている

士」の専門知識を生かして家

の片付けや相続、見守りなど

の相談にも応じてきました。

「人生、嫌になった」と、年の瀬にアパートを引き払ひ、パック一つで区役所にやつて来た70歳代の身寄りのない女性を泊めてあげたこともありました。本来、宿泊はお

えもしなかった体験をするた

や、出会うはずもなかつた人

たち。それまでの人生では考

たのが、19年秋にスタートし

た子ども食堂です。

月1回の開催日には、いつ

切さを痛感させられました。

この活動を始めていなければ、

知らないこともなかつた現実

や、出会いはずもなかつた人

たち。それまでの人生では考

たのが、19年秋にスタートし

た子ども食堂です。

月1回の開催日には、いつ

切さを痛感させられました。

この活動を始めていなければ、

知らないこともなかつた現実

や、出会いはずもなかつた人

たち。それまでの人生では考

たのが、19年秋にスタートし

た子ども食堂です。

月1回の開催日には、いつ

切さを痛感させられました。

この活動を始めていなければ、

知らないこともなかつた現実

や、出会いはずもなかつた人

たち。それまでの人生では考

たのが、19年秋にスタートし

た子ども食堂です。

月1回の開催日には、いつ

切さを痛感させられました。

買い物客にAED／「予防救急職員講義

の3分の1程度が沈むぐら
い」と、片手で胸の中心を
押す動きを実演。AEDの
正しいと呼びかけた。

で助かる命がある。応急救
命を少しでも体験してほ
しい」と呼びかけた。

を搜索した。調べに對し、
黙秘しているという。

発表では、深山容疑者は

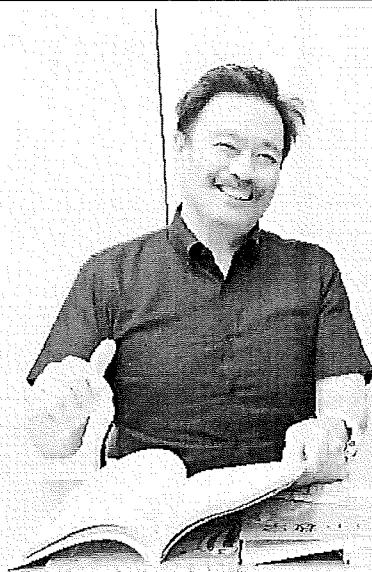
秋季近畿地区高校野球大会府予選
(9日)
一回戦
大商大高15-0泉大津
西創陽19-7大教大池田
宮9-2公大工業

今
新

（聞き手・波瀬聖都）

神戸の無料学習塾に助成

読売光と愛 困窮世帯など中学生対象



子どもの健全育成に取り組む団体を支援する読売光と愛の事業団の「子ども育成支援事業」に今年度、県内からはNPO法人「全国夜間中学ネット」が選ばれた。30万円の助成は、困窮世帯や不登校の中学生を対象にした無料学習塾の家賃

に充てられる。

代表の宮崎仁史さん(62)は39年間、神戸市内の中学、高校で体育教員を務める

ティア約15人があたる。「勉強だけでなく、学校での不安を話せる場所としても活用してもらえば」と宮崎さん。生徒たちからは「学校の勉強についていけるようになった」「成績が伸びた」との声も届いていると



中、勉強についていけず、非常に走る生徒を目の当たりにした。「経済的理由で塾に通えない生徒が学べる場所を作りたい」と思い立った。県立高で校長経験のある吉永一郎さんに呼びかけ、2022年4月に無料の学習塾を始めた。

昨年度は月4~14日、東灘区内の施設を借りて塾を開いた。今年度は長田区内にも開設し、英語や数学を中心とした予習や高校入試の過去問対策なども行う。現在は市内の中学生30人が通い、指導には関西大や関西学院大の学生ボラン

ティア約15人があたる。「勉強だけでなく、学校での不安を話せる場所としても活用してもらえば」と宮崎さん。生徒たちからは「学校の勉強についていけるようになった」「成績が伸びた」との声も届いていると

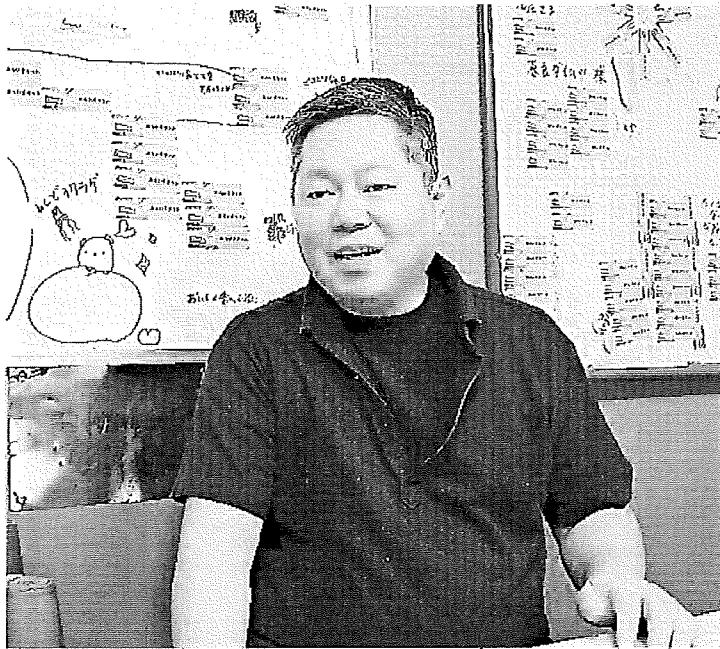
ティア約15人があたる。「勉強だけでなく、学校での不安を話せる場所としても活用してもらえば」と宮崎さん。生徒たちからは「学校の勉強についていけるようになった」「成績が伸びた」との声も届いていると

「地域で支援広がつて」

読売光と愛支援事業 上牧、樋原の子ども食堂

子どもの健全育成に取り組む団体を支援する「読売光と愛の事業団」「子ども育成支援事業」に今年度、県内から上牧町のNPO法人「Genki Future Dreams」が選ばれた。代表の齊藤樹さん(52)は子ども食堂の運営を続けており、「地域で子どもへの支援の輪が広がってほしい」と語る。

(山田珠琳)



「子どもたちは不自由を感じてほしくない」と語る
齊藤さん(樋原市立)

この仕組みが導入されるという。
客からは「チケットを購入すれば無料になる。
みらいチケット(1枚200円)は客が釣り戻し金などで購入して供給される。昨年はカレー約2000食がチケットを使って子どもによると、全国約300か所で

のホワイトボードに貼られた「みらいチケット」を使用すれば無料になる。
みらいチケット(1枚200円)は客が釣り戻し金などで購入して供給される。昨

年はカレー約2000食がチケットを使って子どもによると、全国約300か所で

齐藤さんは同町と樋原市にある店舗「げんきカレー」で、子ども食堂を切り盛りする。店では大人は1食200円(税込み)で、中学3年までの子どもは100円(同)でカレーを購入できる。ただ、子どもは店内

のチケットとして子どもに使われているのか怪しい」との声が寄せられた。寄付した店で何枚のチケットとして子どもが利用したかを可視化できたらと考え、今年1月から

Trend & Business

これまでのチケットは飲食店で使われることがほとんどだったが、服や文具など子どもの成長に必要な物を販売する店と契約を結んでいく予定。年内にアプリ運用に関するクラウドファンディング(CF)を開始し、リリースする予定だ。

齐藤さんは「使った相手から返事が来るような寄付の形を全国に広めたい。子どもからの『ありがとうございます』といふ声がどんどん届いたらうれしい」と意気込んでいる。

同事業団からの助成金50万円は、子ども食堂の運営を始めた。この仕組みが導入されるといふ。生駒市と近鉄グループホールディングス(GHD)は、駅周辺のまちづくりやニュータウン再生などを進めることで連携協定を締結した。沿線の価値向上を目指していくと

沿線価値の向上目指す

生駒市と近鉄GHD協定

生駒市と近鉄グループホールディングス(GHD)

は、駅周辺のまちづくりや

住宅開発などで連携してき

たが、市では加速する人口減少や少子高齢化などの課題に直面。連携協定で協力

関係を深める。

若者の相談や居場所作り

光と愛の事業団 福岡のNPOに助成

読売光と愛の事業団が子どもや若者の健全な育成を目指す団体を助成する「子ども育成支援事業」に、県内からは今年度、福岡市中央区のNPO法人あいむが選ばれた。若者の相談に乗るなどの取り組みが評価された。

(南佳子)

NPO法人あいむは、2019年に前身の任意団体が発足し、不登校児に特化した家庭教師事業を始めた。昨年7月からは、経済的な理由で家庭教師の指導を受けられない子どもや、20歳代の若者の相談に乗つ

日日常的に家族の世話をする「ヤングケアラー」らにも寄り添おうと、福岡市の繁華街・警固公園などを夜間に巡回。公園に集まる10~

たり、宿泊先の確保や生活

「信頼関係築きたい」

保護の申請がださればいつか関係機関に紹介したりしている活動を持続させるため、今年4月に法人化した。

また、1~2か月に1回

の頻度でレンタルスペースを借りて、様々な事情を抱える若者に食事を提供するなどし、居場所を作っている。「行き場がない」「家出中」といった若者が、多い時には約20人参加。今回の助成金は、レンタルスペース使用料や人件費、若者の飲食代に充てる計画だ。

代表理事の藤野莊子さん(31)は「地域や大人の支援を受けられずに、孤立している若者が多い。悩みを打ち明けてもらうためにはコミュニケーションの継続が欠かせず、助成金を活用して信頼関係を築いていきたい」と話している。

法人では、活動費の寄付を募っている。詳しくはウェブサイト(<https://ai-m-education.com/>)。



活動を支援するボランティアと打ち合わせする藤野莊子

「トナリビト」助成団体に

光と愛の事業団 子ども育成支援事業



「当たり前のこと当たり前にしたい」と語る山下さん

養護施設退所 若者らに住まい提供

同法人は2020年に設立。施設で暮らす子どもが退所後、自立できるようにフォローしているほか、貧困や虐待で親を頼れない若者向けにシェアハウスなどを運営している。

現在は6人の入居者が暮らしている。夕食は平日に提供しており、8人のボランティアスタッフが交代制作する。管理人が入居者と顔を合わせ、食卓を囲んで食べる事が大切という。

シェアハウスでは入居者の誕生日にはパーティーを開く。月に一度、外部の人

「子ども育成支援事業」の助成団体に、児童養護施設を退所した若者らに住まいを提供する熊本市のNPO法人「トナリビト」（山下祈恵代表）が選ばれた。シェアハウスで出す夕食代などに充てる。

酒気帯び運転で陸自隊員を停職

第8師団が処分

陸上自衛隊第8師団（熊本市北区）は29日、宇城市で酒気を帯びた状態で車を運転したとして、第8偵察隊の3等陸曹の20歳代男性を停職3か月の懲戒処分とした。依願退職する予定。発表によると、男性は昨年7月9日、宇城市の路上で酒気を帯びた状態で車を運転した。県警がコンビニ店に立ち寄った男性に職務質問し、発覚したとい

も交えて食事をともにする「オープントー」と称した企画も実施している。今回は助成金40万円が贈られる。山下代表は「路頭に迷った時、やり直せる場所を提供したい。特別なことをするわけではなく、当たり前のことをしていく」と語った。

霧島通信部 0995-55-1435
鹿屋通信部 0994-42-3538
薩摩川内通信部 0996-23-2070
奄美通信部 0997-52-0334
指宿通信部 0993-24-1245

購読は
0120-4343-81

鹿児島読売会 099-214-5805
Fax 214-5806
【広 告】099-226-3682
【折り込み】099-284-9053

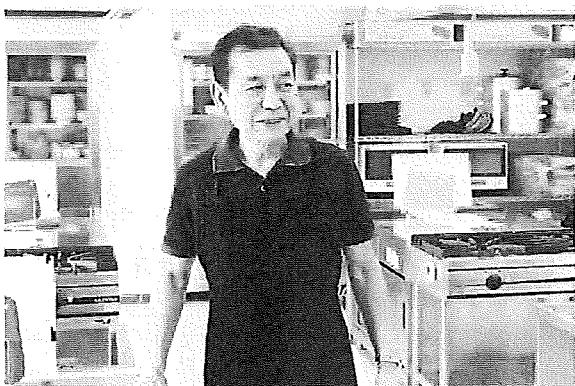
読売光と愛の事業団の今
年度の「子ども育成支援事
業」の助成団体で、県内か
らは鹿児島市の「たわわタ
ウン谷山子ども食堂」が選
ばれた。50万円の助成は、
県産食材や環境に配慮した
容器の購入などに充てられ
る。

(あすのこよみ)	
月齢	15.1
大潮	6.10
日出入	18.05
日出	18.41
月入	6.44
満潮 干潮	

読売光と愛の事業団の今
年度の「子ども育成支援事
業」の助成団体で、県内か
らは鹿児島市の「たわわタ
ウン谷山子ども食堂」が選
ばれた。50万円の助成は、
県産食材や環境に配慮した
容器の購入などに充てられ
る。

子ども食堂に助成金

光と愛の事業団支援事業



たわわタウン谷山子ども食堂を運営する西さん

来、1年3か月ぶり。同観測所からの打ち上げは昨年10月12日のイプシロン6号機以来。肝付町によると、射場に

近いIHースペースポート内浦（旧宮原見学場）を当日下午1時から開放する予定。詳細は町のホームページで発表する。

西さんは「食育を通じて、子どもたちが生涯にわたって健康な体で過ごせることが目標。食品ロス削減や正しいゴミの分別など地球環境についても考える活動にしたい」と話している。

西さんは「食育を通じて、子どもたちが生涯にわたって健康な体で過ごせることが目標。食品ロス削減や正しいゴミの分別など地球環境についても考える活動にしたい」と話している。

西さんは「食育を通じて、

子どもたちが生涯にわたつ

て健康な体で過ごせること

が目標。食品ロス削減や正

しいゴミの分別など地球環

境についても考える活動に

したい」と話している。

西さんは「食育を通じて、

子どもたちが生涯にわたつ

て健康な体で過ごせること

が目標。食品ロス削減や正

しいゴミの分別など地球環